

土壌中のダイオキシン類に関する検討会（第2回）資料 2-5

戻る

資料 2 - 5

検討の進め方（案）

第1回検討会における検討課題に対する意見をふまえ、当面次のように検討を進める。

1 土壌中ダイオキシン類の環境影響の評価について

<検討のすすめ方>

- ・ 類型化した基準やガイドラインを設けて評価していく手法について検討を行う。
- ・ 土壌中のダイオキシン類については、廃棄物焼却炉以外の過去の汚染原因もあり得ることを念頭に、過去の環境への放出量についてさらに情報を収集する。

<暴露アセスメント>

- ・ 土壌中のダイオキシン類の安定性について、文献を中心に調査する。
- ・ 土壌汚染を起点とする暴露アセスメントのシナリオについては、たとえば次のように、目的や考え方に応じた評価を行うこととし、諸外国の評価シナリオを参考にしつつ検討を進める。

①地域的な高濃度汚染について、緊急に地域の住民の暴露リスクを低減することを目的とする評価

→住宅地、公園などの土地利用等の区分に応じて、

直接摂取、皮膚接触、粉塵吸引など、その土地利用等に係る暴露経路を考慮して検討。

②日本全体のダイオキシン暴露量を長期的に低減するための評価

→土壌を起点として、公共用水域等を経由する経路を含む、ロングチェーンの暴露

を考慮して検討。

<必要な調査について>

別紙のような文献調査とあわせ、必要な実証試験を実施する。

(例) 巻き上げ特性試験

大気のモニタリング調査と連携して、3 m以上と3 m未満にハイボリュームエアサンプラーを設置し、粒径分布ごとのダイオキシン類を計測し、土壌粒子の巻き上げの状況及び寄与を調査。

2 土壌中ダイオキシン類のリスク低減手法について

文献調査とあわせ、ダイオキシン含有土壌を用いて、パイロットスケールで確立されている残留性有機化合物に係る土壌の浄化技術のダイオキシン類に対する適用可能性、安全性の実証調査を行う。

(別紙)

現在実施中の土壌中ダイオキシン類に係る文献調査項目

○土壌中ダイオキシン由来の健康リスクの把握

- ・ 諸外国(州政府含む)での土壌由来のリスクの評価方法
- ・ 高濃度汚染地域における事例調査（土壌中濃度と体内濃度の相関等）

○土壌中ダイオキシン類の挙動の把握

- ・ 土壌中ダイオキシン類の分解（光分解、化学分解、生物分解）
- ・ 土壌中ダイオキシン類の半減期
- ・ 土壌中ダイオキシン類の食物連鎖による生物濃縮
- ・ 土壌中ダイオキシン類の簡易分析技術

○土壌から他の媒体を経由する曝露影響

- ・ 土壌から農作物への移行
- ・ 土壌から畜産物への移行
- ・ 土壌から魚介類への移行
- ・ 土壌から水圏、大気圏への移行

○土壌からの直接摂取による曝露影響

- ・総曝露量に占める土壌由来の曝露の割合
- ・土壌の直接摂取量（ダイオキシンに限らない）
- ・土壌の軽気道曝露量（ 〃 ）
- ・土壌の経皮曝露量（ 〃 ）
- ・土壌中ダイオキシン類の腸管吸収率
- ・土壌中ダイオキシン類の軽気道吸収率
- ・土壌中ダイオキシン類の経皮吸収率

○ダイオキシン類土壌汚染対策

- ・ダイオキシン類の分解処理技術
- ・ダイオキシン類の封入処理技術
- ・芝草，マルチによる影響防止効果

○諸外国において実施されている対策

- ・諸外国における浄化処理マニュアル
- ・事例調査（汚染場所,汚染原因,汚染件数,対策実施件数,対策の命令者,
実施者,費用負担者,対策技術,対策実施後の土地利用状況）